

Epistula

vol.
27

大分県立芸術文化短期大学
2012 Spring

エピストゥラ … epistula,ae,f. 手紙、文章【ラテン語】

国際文化学科

Kokubun 2011

4月

- 入学式
- 研修旅行(1年生)
- 前期授業開始



10月

- 芸短祭 大分国際車いすマラソン大会 海外選手との交流・ボランティア体験 (1・2年生)
- Fair Trade Market (玉井ゼミ)

5月

- メキシカンパーティー(ヌートバーゼミ)



11月

- 特別講演会「アフガンに命の水を」(ペシャワール会 事務局長の福元満治さん)
- 平成24年度推薦入学試験

6月

- 1年生進路オリエンテーション

12月

- 「リチャード・デーヴィス展 一眼差しの記憶, 記憶の眼差し」(アートプラザ)
- Christmas Party

7月

- 合同竹田キャンパス合宿(永田ゼミ・野坂ゼミ)
- 夏期オープンキャンパス
- 講演会「大分県の観光振興について」(大分県観光・地域振興局の阿部万寿夫さん)
- 前期末試験

1月

- 卒業論文提出、発表(2年生)
- 出前ワークショップ(大分東高校) 「もし世界が100人の村だったら」(玉井准教授)
- 学期末試験

8月

- 海外語学実習(イギリス・韓国)
- カンボジア研修旅行
- インターンシップ(1・2年生)



2月

- 海外語学実習(アメリカ・フランス)
- 平成24年度一般入学試験(前期日程)

9月

- 沖縄合宿(疇谷ゼミ)
- 秋期オープンキャンパス
- 後期授業開始

3月

- 卒業式
- 平成24年度一般入学試験(後期日程)



平成25年「春」国際文化学科が生まれ変わります 詳しくは4面に

オリエンテーション

太宰府天満宮&九博を見学

入学式を終えたばかりの新入生を対象に、「学外オリエンテーション」を実地しました。4月9日の朝に、JR大分駅前集合し、大型バスに分乗して福岡にむけて出発。太宰府天満宮および九州国立博物館を訪れました。折しも九州国立博物館では、特別展「黄檗—OBAKU 京都宇治・萬福寺の名宝と禅の新風」が開催中で、これまで全く知らなかった禅の世界に触れ、その伝統と美を学ぶことができました。最初はお互いの名前もわからず、会話もぎこちない感じでしたが、福岡からの帰りのバスではすっかり打ち解け、メールアドレスを交換するなど、順調な学生生活のスタートを切ることができました。



太宰府天満宮にて

ゼミ合宿

日仏の「原発問題」を討論

7月23日(土)と24日(日)の2日間、竹田キャンパスで永田ゼミ(フランス文学)と野坂ゼミ(日本文学)の合同ゼミ合宿を開催しました。学生30名、教員2名、国際交流員1名が参加しました。今回の竹田合宿のテーマは「原発問題」。永田ゼミと野坂ゼミの学生が、それぞれフランスと日本の原発について報告しました。報告会の後は、バーベキューで1年生と2年生が共にコンロを囲み、学年の枠をこえて交流しました。



野坂ゼミによる日本の原発についての発表



バーベキューの様子

芸短フェスタ

～大分国際車いすマラソン大会出場海外選手による講演会&交流会～

ピーターさんとの語り合い

芸短フェスタの一つとして、「第31回大分国際車いすマラソン大会」の出場選手、ピーター・ホーキンスさん(アメリカ)に《My Life as a Wheelchair Athlete》と題して、10月27日に講演していただきました。17歳の時に、交通事故のため足が不自由となったピーターさんですが、現在は優れたアスリートとして、世界各国で活躍されています。講演の中でピーターさんは、自身の経験に基づいて「その時々を選択を誤らないこと」の大切さ、そして前向きで強い意志を持つこと、あきらめなければ道は必ず開けるといこと、などを話してくれました。講演会の後は、ノートパーゼミの学生が中心となってピーターさんを囲んでの歓迎会を催しま

した。10月30日の大会当日も、何人かの学生がレースの応援に駆け付けました。このような経験を通じて、学生たちは、国際交流や障がい者スポーツへの関心をもつことができました。



ノートパーゼミでの歓迎会



腕くらべ!



講演の様子

海外語学実習&交換留学

毎年、芸文短大では、長期休暇を利用して多くの学生が、本場の生きた外国語を学ぶために海外に飛び出しています。平成23年度は、夏季休暇にイギリス(エセックス大学)と韓国(高麗大学)の語学実習に、それぞれ13名と11名の学生が参加し、春季休暇にはアメリカ(カリフォルニア州立大学デイビス校)に22名、韓国(高麗大学)に9名、フランス(サヴォワ大学)に9名の学生が短期留学をしました。

エセックス大学、インターナショナル・アカデミー (イギリス・コルチェスター、8/6~9/6)

概要 ロンドンから北東に80kmのコルチェスター市にあるエセックス大学で4週間の語学実習を行いました。週20時間の英語の授業の他に、週末にはロンドンやケンブリッジなどへのバス旅行も体験しました。

イギリスに来たばかりのときは、全然英語が聞き取れませんでした。次第に聞き取れるようになったことを実感。度胸もつき、もっと英語を話せるようになりたいと強く思うようになりました。(国際文化学科1年 上米良 麻衣)

いろんな国からの留学生がいて、一日中英語を話すことができたので、自分にとってすごくプラスになりました。カンタベリーまで一人で旅行もしました。世界遺産にもなっているカンタベリー大聖堂を見て、とても心が癒されました。(国際文化学科1年 吉水 みほ)



他の国の実習生と一緒に

8月7日、長いフライトのあと、ようやくイギリスに到着!!!周りは、ほとんど外国人で、見るものすべてが新鮮でした。翌日は初めてのロンドン!!!建物すべてが素敵でした。(国際文化学科1年 川原 捺美)

カリフォルニア州立大学デイビス校 (アメリカ合衆国、2/12~3/12)

概要 アメリカ西海岸のサンフランシスコ市から120km離れた自然豊かな大学タウンで、ホームステイしながらアメリカの文化と英語を学び、さらに地域のボランティア体験も楽しみました。

私は中学生の頃からアメリカに留学することが夢でした。芸文短大に入学し、アメリカに留学できると聞き、これは行くしかない!と思い両親を説得しました。アメリカは素敵な国でした。言語や文化が違っても、コミュニケーションや信頼関係を作ることができるからです。一歩を踏み出すだけで得るもの大きさを実感しました。(国際文化学科1年 宮崎 史帆)

このアメリカ研修で、いろいろな経験ができました。例えば、登校初日から、知らない道を一人で自転車で通学したこと(もちろん何度か迷いました(笑))、自分達で計画を立てて、サンフランシスコに行ったことやボランティア活動など、どれも思い出です。また機会があれば、様々な国に行きたい

と思います。この研修に参加して良かったです!(国際文化学科1年 児玉 愛莉)

毎日様々な発見があって飽きることがなく、とても充実した1ヶ月間でした。さらに、ツアーも充実しており、いろいろな場所に行くことが出来ました。大学の授業は大変でしたが、英語力向上に繋がりました。(国際文化学科1年 三浦 円)



ホストファミリーと

自転車で通学

サヴォワ大学付属外国人向け語学学校 ISEFE (フランス・シャンペリー、2/16~3/21)

概要 フランス南東部、アルプスの麓にあるシャンペリー市のサヴォワ大学で4週間の語学実習をしました。フランス語の授業の他に、アルプスでのスキーツアーや、地元との交流パーティ、パリ観光など、充実した課外活動も経験しました。

私はフランス史が勉強したく、特にヴェルサイユ宮殿をいつか訪れてみたいと思っていました。その豪華絢爛さは、思わず言葉を失ってしまうほどでした。歴史のスケールの大きさに、深く感動しました。(国際文化学科1年 奥津 杏都美)

言葉が伝わらない国での1ヶ月間のホームステイは大変ながらも伝わった時の喜びはとても大きかったです。フランスの良い所も悪い所も知る事の出来た4週間でした。(国際文化学科1年 小野 柚希)



ヴェルサイユ宮殿



課外活動で訪れたリヨン市で

インターンシップ

就活への第一歩

進路支援の一環として実施しているインターンシップ(就職体験)に、多くの1年生が参加しました。1年次の6月から始まる進路オリエンテーションで将来の自分についていろいろ考え、ビジネスマナー講座などの講習を受けて、夏休みに各人がインターンシップに参加しました。大分県内の企業・官公庁での協力をいただき、学生たちにとって、希望とする職場は実際にどんな仕事をしているのか、就職に向けて何をすべきかなどを知る良い機会となりました。

参加した学生の粟田優子さんのコメント:
「私はさくら旅行社でインターンシップをさせていただきました。仕事の内容は、国東半島に直接行き、どうすれば国東にもっと観光客が訪れるようになるのかという課題のもとに話を聞いたり質問したりしました。このインターンシップを通して得たことは、積極的に自分の意見を言い、行動することの難しさです。とてもいい経験ができました。」



卒業研究/卒業式

2年間の学生生活の集大成

卒業論文は、短大での学習の成果です。1月13日(金)締切で無事卒論を提出した後、「卒業研究発表会」を、2月6日(月)と7日(火)の日程で行いました。いずれの発表会でも、資料を配付したり、パワーポイントを使ったり、映像を流したり、とても充実した内容のものとなりました。卒論も終え、必要



日本文学研究室と哲学研究室の合同発表会

な単位(2年間で63単位!)も無事にそろえ、やっと春休みにたどりついたと思ったら、3月23日(金)の卒業式です。忙しくも充実した2年間を惜しみつつも、みんな新しいステージに向けて走り出しました!!!



学科での最後の全体写真

水野先生も卒業

水野先生が3月をもって日本女子大学に転出することになりました。才能豊かで、本当に多くの学生に慕われた水野先生が芸文短大を去ることはとても寂しいことですが、新天地でのさらなる活躍を国文一同、願っています!

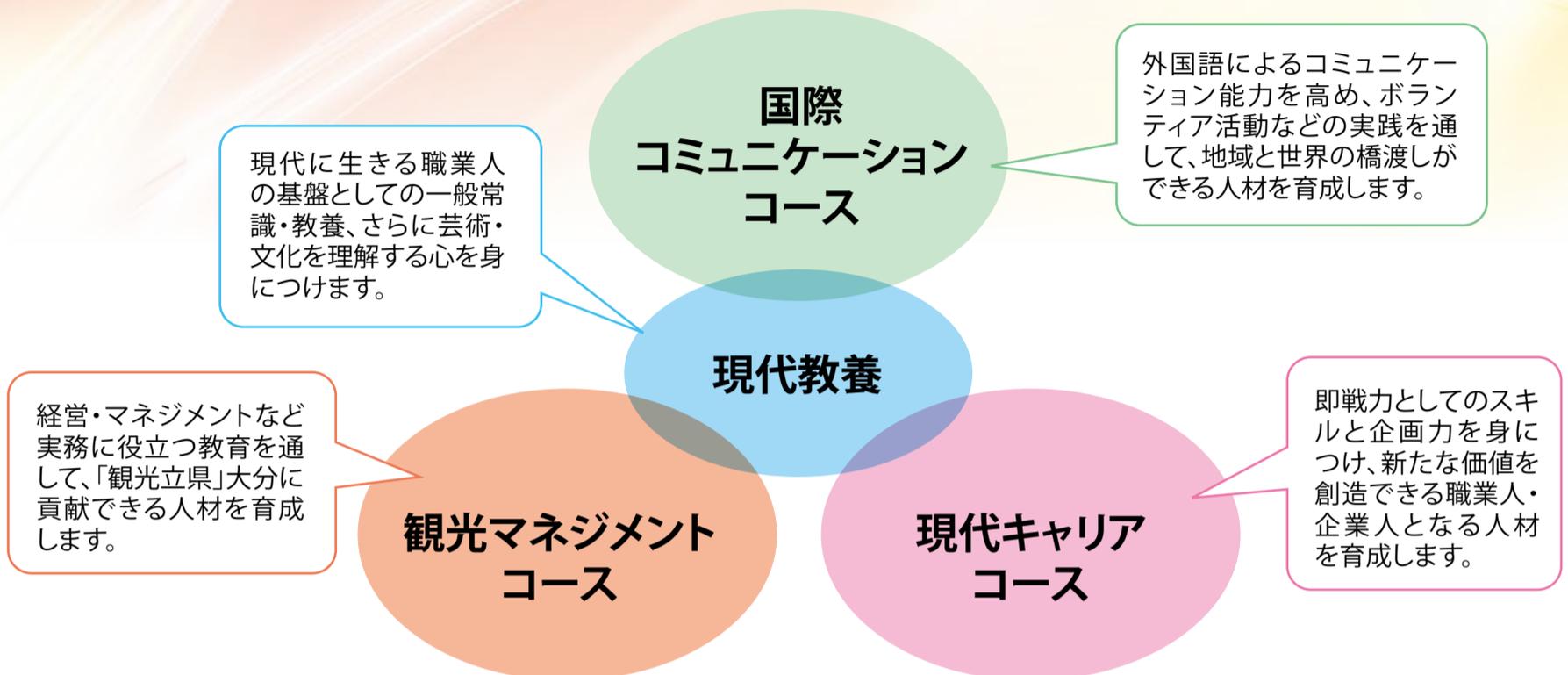


水野優子先生

新しくなる

国際文化学科

(平成25年4月から**国際総合学科**の名称に変更予定です)



全国随一の国際的キャリアを育成し、地域に貢献する公立短大へ

飛び出せ地域へ、世界へ

平成24年4月に創立20周年を迎える国際文化学科は、さらなる教育内容の拡充・発展をめざし、**国際総合学科** (仮称) へとリニューアルします。**現代教養**で、一般常識や基盤キャリア教育を通じて基礎力を身につけた学生は、各自の関心にしたい3つのコースのいずれかを選ぶことになります。**国際コミュニケーションコース**では、国際化・グローバル化に対応するための国際的視野とコミュニケーション能力を養成します。**観光マネジメントコース**は、観光業を中心に地域社会で活躍し、「観光立国・日本」に貢献できる人材を育成します。**現代キャリアコース**は、企業が求める企画力や実践的スキルの養成を柱とします。また、地域と一体となった活動や、海外での実習プログラムも充実させます。

充実のキャリア形成

各コースとも、それぞれのキャリア形成に必要な資格や検定の取得をサポートします。国際コミュニケーションコースにおいては、英・仏・中・韓の各種語学検定やTOEICのほか、国際秘書士の取得が可能です。観光マネジメントコースでは、旅行地理検定や世界遺産検定の他、観光実務士が取得可能となります。現代キャリア学科では、従来の秘書士や簿記に加え、ビジネス実務士などの資格取得を目指します。



学長コラム 教養とは何でしょう



中山 欽吾

似顔絵 / 柳野 郁子
(専攻科 造形専攻1年)

国際文化学科には、様々な科目が用意されており、豊かな教養を育む学科だと考えられています。ところで、その教養とは一体どんなものなのでしょうか？皆さんは小学校時代から今まで、様々な事を勉強して学びとってきました。その学んだことは、知識となりますが、知識が多いことが豊かな教養を持つことになるのでしょうか。

半年ほど前にキャリアプランニングという授業で、『頭の引き出しを増やす』というお話をしました。答えの与えられていない問題があると、その答えを見つけ出すために人はどのような方法をとるかというお話の中で、頭の引き出しを沢山持つことが、答えを探す大きな力になるのだと言ったのです。そこで言う『頭の中の引き出し』こそが教養の本体だと思います。

つまり教養とは、ため込んだ知識を応用できる形に変えて、いつでも使えるように準備ができている状態をいうと考えるのです。これを「頭の中を耕す」という風に考えるのが英語で言うカルチャーという

言葉です。通常、文化と訳しますが、動詞のカルティベイトは耕すという意味で、このカルチャーという言葉には教養という意味もあります。つまり引き出しの中には一度知識を耕したあとで入れておく、それが教養の正体であり、文化でもあるのです。

ではどうすれば知識を耕すことができるのか。私は、そこに右脳の役割があるのだと思います。左脳で得た知識を右脳の助けを借りて耕して、引き出しに蓄えておく。だからこそカルチャーが文化という訳にもなるのではないかと思います。教養は、リベラル・アーツとも言います。リベラルとは「専門に偏らない」、アーツとは「経験を通じて習得するもの」をいい、ただ物知りというだけでなく、その人が持つ素養が知識に加味されていることは明らかです。このような抽象概念の熟語は明治期に外国語を和訳して作られたものが多く、その語源をたどると真の意味が浮き彫りにできるわけです。国際文化学科が芸術系学科と共存する意義は大きいと言わなければなりません。